

原発関連の動き

(赤：国外関連、青：地震など関連情報、緑：事故など)

「2018年9月」

2018年

- 9月1日 青森県大間町に建設中の大間原発で、目標としてきた2018年後半の本格的な工事再開を延期する方向で最終調整。原子力規制委員会による新規規制基準への適合性審査が長期化しているのが要因。
- 9月2日 通常原発でMOX燃料を燃やすプルサーマルを巡り、原発を持つ電力会社10社が、一度使ったMOX燃料を再処理して再び燃料として利用するための費用の計上を、2016年度以降中止していた。事実上、MOX再処理の断念となる。
- 9月3日 福島第一、二原発が立地する福島県の4町長らでつくる協議会が経済産業省に対し、汚染水浄化後に残る放射性物質トリチウムを含んだ水の処分に関し、環境や風評への影響を慎重に議論し、地元理解を最優先に取り組むよう要請。
- 9月3日 日立製作所が、原発の使用済み核燃料を再処理する際に生じる高レベル放射性廃棄物の中から、希少資源のジルコニウムを9割以上の効率で回収する技術を開発したと発表。
- 9月3日 午前6時47分ごろ、山口県北西沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。山口県萩市、宮城県岩沼市、福島県茨城県、栃木県、群馬県、千葉県など広域で震度3。
- 9月4日 電源開発が、建設中の大間原発について、2018年後半としていた安全対策工事の開始時期を約2年延期すると町議会で説明。工事の延期は3回目。26年度ごろに先送りされる公算となった。
- 9月5日 原子力規制委員会が、検査不正を公表した電線大手フジクラの不正ケーブルが、九州電力の玄海原発と川内原発で使用されていたと発表。九電からは制御系統には使われていないとの報告。いずれのケーブルも性能に問題は無いとしている。
- 9月5日 東通原発、柏崎刈羽原発1号機、浜岡原発4号機で、緊急時に原子炉に冷却水を送る配管の耐震性の計算に誤りが見つかった。東通では、配管の一部で地震時にかかる負荷を、想定される大きさの10分の1近くまで過小評価していた。3原発とも、原発メーカーの東芝が計算を誤っていた。
- 9月5日 福島第一原発事故をめぐる強制起訴された東電旧経営陣3人の第24回公判で元会長の勝俣恒久被告らが2008年、国の専門機関による地震予測

に基づく津波対策を同原発で実施する方針をいったん了承しながら、後から先送りしたという、東電元幹部の供述調書が証拠採用され、全文が法廷で読み上げられた。

- 9月6日 午前3時08分ごろ、胆振地方中東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは6.7と推定。北海道厚真町で震度7、北海道安平町、むかわ町で震度6強、北海道千歳市、日高地方日高町、平取町で震度6弱、北海道札幌北区、苫小牧市、江別市、三笠市、恵庭市、長沼町、新冠町、新ひだか町で震度5強、北海道函館市、室蘭市、岩見沢市、登別市、胆振伊達市、北広島市、石狩市、新篠津村、南幌町、由仁町、栗山町、白老町で震度5弱、北海道、青森県の広域で震度4。震度4、3の余震、連続して発生。
- 9月6日 北海道電力が午前3時45分、泊原発について確認したところ、外部電源が喪失していた。このため、非常用電源で電力を供給している。放射線量に異常はない。午前3時9分に北海道庁が災害対策本部を設置した。外部電源が6日午後0時13分ごろ復旧。
- 9月6日 北海道電力泊原発の周辺にある放射線監視装置「モニタリングポスト」計91基のうち21基が、地震の影響で停止したと発表。
- 9月6日 新潟県の花角英世知事が、柏崎刈羽原発を視察。
- 9月6日 北海道胆振地方を震源とする地震が発生。北海道全域で全域停電、一時は、北海道内のほぼ全世帯に当たる295万戸で停電した。
- 9月6日 福島第一原発1号機の原子炉建屋最上階「オペレーティングフロア」で空間放射線量を測定した結果、使用済み核燃料プール周辺の崩落屋根付近で毎時約40～80ミリシーベルトだったと発表。
- 9月6日 東京電力が、福島第一原発3号機の使用済み核燃料プールからの燃料取り出し開始時期が、当初予定の11月から遅れる見通しを示した。燃料取扱機やクレーンに不具合が相次ぎ、原因究明や対策に時間を要するため。
- 9月10日 東海第二原子力発電所について、独自に安全性を検証している茨城県の委員会による現地調査が行われ、重大な事故が起きたときに原子炉を冷却する方法などを視察。
- 9月10日 九州電力が原子力規制委員会の審査会合で、玄海原発の敷地内で新たに26本の断層を確認したと公表。玄海3、4号機は新規制基準での審査に合格して再稼働しているが、いずれも活断層ではないと説明。規制委は、地盤の安定性に影響がないか詳しく確認する方針。
- 9月10日 北陸電力が、8月末の大雨で志賀原発敷地内のモニタリングポスト1台が故障したことを受け、再発防止に向けた取り組み内容を公表。降雨時、モニ

タリングポストが設置してある建物の周辺排水路を優先的に確認するほか、「恒久対策として確実に排水できる方法を検討する」としている。

9月10日 国際原子力機関(IAEA)が、世界全体の原子力発電設備容量は向こう10数年で縮小するとの見通しを示す。原子力産業は老朽化した原子炉の廃炉や競争力の低下に直面する中で難しい状況に陥ると予想。

9月10日 菅官房長官が記者会見で、運転停止中の北海道電力泊原発の再稼働に関し「現在、原子力規制委員会で新規規制基準に基づく安全審査中であり、直ちに再稼働をすることはあり得ない」と述べた。

9月10日 高浜原発3号機で施設内の点検作業をしていた下請け会社の男性作業員が、計画線量の2倍にあたる1.81ミリシーベルトを被ばくしていたと発表。

9月10日 23時58分ごろ、千葉県南東沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.8と推定。千葉県鴨川市で震度4、千葉県美浜区館山市、勝浦市、市原市、君津市、南房総市、いすみ市、一宮町、長柄町、長南町、大多喜町、御宿町で震度3。

9月11日 午前4時27分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.0と推定。福島県新地町で震度3。

9月11日 19時07分ごろ、胆振地方中東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.2と推定。北海道厚真町で震度4。

9月12日 原子力規制委員会の更田豊志委員長が定例会見で、北海道胆振地方を震源とする地震に関連し、泊原発の再稼働の前提となる審査について会見。「欠けや見落としがないか改めて考えるべきで、やや慎重になるかもしれない」、「発電所の安全性が十分なものか確認する行為と電力の不足は別の問題」として、審査を急いだりせず、厳正な姿勢を取ると話す。

9月12日 定期検査中の高浜原発3号機原子炉格納容器内にある蒸気発生器の内部で異物を見つけたと発表。異物が見つかったのは3台ある蒸気発生器の1台。

9月12日 18時24分ごろ、胆振地方中東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。北海道厚真町で震度4、安平町、むかわ町、平取町で震度3。

9月13日 午前1時34分ごろ、胆振地方中東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.2と推定。北海道厚真町、安平町、むかわ町で震度3。

9月13日 女川原子力発電所の原子炉建屋などで、漏電を防ぐために使われている「碍子」と呼ばれる部品で十分に検査をしていないものが使われていた。東北電力は、「原発の安全性に影響はない」と説明している。

- 9月13日 原子力規制委員会の再稼働と最長20年の運転延長を目指す東海第2原発についての会合で、運転延長の審査をおおむね終了。これにより、40年の運転期限に必要な三つの審査の議論がほぼ終了。早ければ9月下旬にも再稼働の審査で、正式合格とするか判断する見通し。
- 9月13日 東京電力が、福島第一原発1、2号機の建屋内にたまっている汚染水の水位が、両号機の連通部となっている床面の高さを下回り、汚染水が両号機間で流入しない「連通部の切り離し」を達成したと発表。
- 9月13日 東北電力女川原発で重大事故が起きた際、住民の避難に必要なバスを確保するため、宮城県と県バス協会が連携協定を結んだ。
- 9月13日 15時06分ごろ、胆振地方中東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.9と推定。北海道厚真町で震度3。
- 9月13日 柏崎刈羽原発の設楽所長が記者会見。先月30日、3つある非常用のディーゼル発電機のうち1つで、発電機の出力が急激に低下するトラブルがあり、発電機の内部にある圧縮した空気を送り出す装置が動かなくなっていたことに関して、残っている2つの発電機で非常時の対応はできるという認識を示した。
- 9月14日 午前6時54分ごろ、胆振地方中東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.6と推定。北海道厚真町、安平町、むかわ町で震度4、札幌東区、苫小牧市、千歳市、日高地方日高町、平取町で震度3。
- 9月14日 午前9時48分ごろ、胆振地方中東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。北海道厚真町、安平町で震度3。
- 9月14日 午前10時54分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.8と推定。福島県田村市で震度3。
- 9月14日 14時35分ごろ、茨城県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.9と推定。福島県白河市、茨城県日立市、土浦市、下妻市、常総市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、笠間市、常陸大宮市、筑西市、坂東市、城里町、五霞町、境町、群馬県高崎市、渋川市、埼玉県加須市、宮代町、千葉県野田市で震度3。
- 9月14日 17時26分ごろ、茨城県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.1と推定。茨城県常陸太田市で震度3。
- 9月14日 17時31分ごろ、胆振地方中東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.1と推定。北海道厚真町、安平町で震度3。
- 9月14日 北海道の地震による停電の影響で、泊原発の外部電源が一時喪失した事実について、同村など地元の四町村が、防災無線などで住民に周知していなかった。安全協定に基づいて北海道電は道と四町村に原発の電源喪失の事実を通報。泊村、共和町、岩内町、神恵内(かもえない)村は地震当

日、地震の発生と停電の状況は防災無線や広報車を使って周知したが、電源喪失の情報は流さなかった。

9月14日 原子力規制委員会で東京電力が、北海道東部沖の千島海溝沿いで想定される超巨大地震に伴う津波に備え、廃炉を進める福島第1原発に防潮堤を増設することを報告した。

9月14日 四国電力の佐伯勇人社長が、広島高裁の仮処分決定で9月末まで運転差し止め中の伊方原発3号機について「10月1日の再稼働は難しい」、「具体的なスケジュールを9月中に示したい」との考えを示す。

9月14日 米国で現在ただ一つ新設工事中の原子力発電所をめぐる訴訟合戦が起こり、地元では、膨らむ建設費用を誰が負担するのか論争を呼んでいる。

9月15日 18時43分ごろ、茨城県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.8と推定。茨城県日立市で震度3。

9月15日 胆振東部地震で停止した苫東厚真発電所の耐震基準が「震度5」程度だったことが判明。苫東厚真発電所の耐震基準は3基とも「震度5」程度。北電は、これらの基準について2011年の東日本大震災の後も国の委員会で「見直す必要がない」とされていたと説明。

9月15日 関西電力が音海半島の根元にある高浜原発の敷地内に、700メートル、高さ6メートル、幅8メートルの規模でトンネルを建設することが判明。

9月17日 午前2時51分ごろ、胆振地方中東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。北海道札幌東区、千歳市、恵庭市、厚真町、安平町、むかわ町で震度4、札幌北区、札幌白石区、札幌豊平区、札幌西区、札幌厚別区、札幌手稲区、札幌清田区、函館市、苫小牧市、江別市、登別市、北広島市、石狩市、南幌町、長沼町、日高地方で震度3。

9月17日 IAEAの年次総会で、内閣府の松山政司特命担当相が日本の原子力政策を説明、「プルサーマルを着実に実施、プルトニウムの利用および管理の透明性を高める」として、日本が大量に保有するプルトニウムの削減に努めると強調。

9月18日 伊方原発3号機の運転を差し止めた広島高裁の仮処分決定を不服として四国電が申し立てた異議の審尋について、広島高裁が決定を25日午後1時半に出すことを決定。

9月18日 九州電力が20日から、東松浦郡玄海町と唐津市の一部地域の計8500戸を対象に社員が戸別訪問し、再稼働、営業運転復帰した玄海原発3、4号機の安全対策について説明する。

9月19日 福島第一原発事故で強制起訴された旧経営陣の裁判で、避難を余儀なくされた病院の看護師だった女性が出廷。「亡くなったのは避難により、治療

ができなかったから」と答えたうえで、「地震や津波が起きても原発事故がなければ治療ができた」と述べた。

9月18日 18時43分ごろ、茨城県南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。茨城県加須市で震度4、茨城県笠間市、栃木県栃木市、佐野市、下野市、群馬県板倉町、千代田町、大泉町、邑楽町、埼玉県行田市、春日部市、久喜市、川島町、宮代町、東京都杉並区で震度3。

9月18日 マレーシアのマハティール首相がクアラルンプールで開かれた「電力供給産業会議2018」の開会式で、電力などのエネルギー源として原子力を選択することはない、との立場を明らかにし国策として「反原発」を宣言した。

9月19日 午前1時21分ごろ、宮城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.9と推定。岩手県大船渡市、一関市、陸前高田市、住田町、宮城県石巻市、気仙沼市、登米市、栗原市、東松島市、松島町、涌谷町で震度3。

9月19日 午前9時01分ごろ、茨城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.1と推定。福島県泉崎村、茨城県日立市で震度3。

9月20日 東北電力女川原発2号機再稼働について、仙台市の住民団体が地方自治法に基づき、県民投票条例の制定を村井嘉浩知事に直接請求するため署名を集めると発表。

9月20日 定期検査中の関西電力高浜原発3号機の蒸気発生器内で、伝熱管が通る支持板の間に異物が挟まり、伝熱管1本の外側部分が摩耗していた問題で、異物は2次冷却水に含まれる鉄の微粒子が集まったさびだったと発表。

9月21日 午前7時56分ごろ、胆振地方中東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.1と推定。北海道厚真町、むかわ町で震度3。

9月21日 午前9時29分ごろ、長野県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.4と推定。長野県長野市、信濃町で震度3。

9月21日 原子力規制委員会が東海第二原発について、再稼働の前提となる審査に合格したことを示す審査書を26日に決定する見通し。

9月21日 福島第一原発のトリチウムを含む水について、敷地内で保管するタンクの放射性物質濃度を、東電が2018年2月から測定していた。従来は「タンクの濃度は調べていない」と繰り返してきた。

9月22日 福島第一原発の各建屋に滞留する水の抜き取りを進めていた1、2号機で、貫通部より水位を下げ、切り離しを完了。汚染水の行き来をなくして汚染範囲を狭め、廃炉作業を促進する。3、4号機はすでに切り離しており、廃炉工程表通りに2018年内の各号機切り離しを完了した。

- 9月24日 午前0時05分ごろ、茨城県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.0と推定。茨城県水戸市、笠間市、城里町、東海村、大子町で震度3。
- 9月24日 国の原子力委員会が、原子力規制委員会の審査書案にある東海第2原発の新規制基準に適合しているとしたということについて、原子力の平和利用の観点から妥当との判断を示した。再稼働に向け、原子炉等規制法で定められた手続き。
- 9月24日 国内の総発電量に占める原子力発電の割合が2050年度には1割未満にとどまるとした環境省の試算が、経済産業省の反発を受けて公表されずに撤回されていた。経産省が政府のエネルギー基本計画の改定作業を進めており、将来の原発比率に関する議論に影響することを懸念したとみられる。
- 9月24日 18時17分ごろ、胆振地方中東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.2と推定。北海道札幌白石区、苫小牧市、千歳市、胆振伊達市、厚真町、安平町、むかわ町で震度3。
- 9月25日 佐賀県議会本会議が、玄海原発で貯蔵されている使用済み核燃料に2019年度から5年間、課税対象を拡大する条例を可決した。
- 9月25日 四国電力伊方原発3号機の運転を差し止めた広島高裁の仮処分決定について、広島高裁が四国電力の保全異議を認め、決定を取り消した。差し止めの法的拘束力がなくなり、10月27日に3号機の運転を再開すると発表した。住民側は最高裁への不服申し立てを行わない方針を示した。仮処分の審理は終結し、この日の決定が確定。
- 9月26日 原子力規制委員会は、東海第2原発が新規規制基準に適合しているとする「審査書」を決定。再稼働の前提となる審査に正式に合格したことになる。
- 9月27日 午前10時ごろ、玄海原子力発電所敷地内にある「廃棄物処理建屋」で火災報知器が鳴り、煙が上がっているのを職員が発見。火災ではなく機器の故障とみられ、煙は正午前には消え、消火活動も行っていない。佐賀県原子力安全対策課によると、県の設置しているモニタリングポストに数値の異常はなく、今回のトラブルによる敷地内外への放射性物質の流出はないとみられる。
- 9月27日 東京電力が11月の開始を予定していた福島第一原発3号機の使用済み燃料プール内から核燃料を取り出す作業を延期すると発表。燃料搬出に使う機械で不具合が生じ、点検に時間を要するため、来年以降になる見通し。

- 9月27日 四国電力の佐伯勇人社長が広島高裁の異議審決定で伊方原発3号機の再稼働が認められたことに関し「安全性は確保されているとの主張が認められ、安堵した」と述べた。
- 9月27日 東北電力の原田宏哉社長が、女川原発1号機について「廃炉も具体的な選択肢として検討していく」として、運転開始から35年目を迎え、さらなる運転期間の延長に伴う経費などを考慮し、最終判断する。
- 9月27日 東海第二原発の再稼働を巡り、常陸大宮市議会が、住民同意のない再稼働に反対する意見書を賛成多数で可決。再稼働に反対する意見書は六月に水戸市議会でも可決されている。
- 9月28日 午前4時32分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.0と推定。福島県広野町で震度3。
- 9月28日 伊方原発3号機について、大分県の住民が運転差し止めを求めた仮処分申し立てで、大分地裁は差し止めを認めない決定をした。
- 9月28日 日本原子力研究開発機構が、人形峠環境技術センターの「ウラン濃縮原型プラント」の廃止計画を原子力規制委員会に申請した。核燃料の加工関連施設の廃止計画申請は国内で初めて。
- 9月28日 関西電力が定期検査を終えた高浜原発4号機の営業運転を再開。定放射射性物質を含む微量の蒸気漏れが見つかり、当初の計画より9日遅れの再開となった。
- 9月28日 川内原発2号機が定期検査の全工程を終え、営業運転に復帰した。
- 9月28日 日本時間の28日19時02分ごろ、インドネシア付近で地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードはM7.5と推定。同国気象当局は、津波が一部地域で起きたことを確認。ロイター通信によると、最大2メートルの津波が起きた。
- 9月28日 福島第一原発の汚染水を浄化した後にタンクで保管している水のうち、約8割に当たる75万トンで、トリチウム以外の放射性物質の濃度が排水の法令基準値を超過しているとの調査結果が判明。今後、海洋放出など処分をする場合には、多核種除去設備などで再浄化する方針を表明した。
- 9月29日 政府が、来年度から高速増殖原型炉「もんじゅ」の廃炉などを受けて、将来燃料などとして活用するはずだった研究用プルトニウムを廃棄する研究を開始する。安全に捨てる方法を探るほか、米国への処分委託も検討。
- 9月29日 18時26分ごろ、胆振地方中東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.2と推定。北海道千歳市、厚真町、むかわ町で震度3。